



6次産業化の推進

中間農業地域

す せ う つ く

あ こう し

周世美しい村づくり活動組織（兵庫県赤穂市）

- 本地域は、中山間地域に位置する水田地帯であり、都市部への人口流出により、農村環境の維持管理が困難となっていた。
- このため本活動組織は、平成19年度から農地・水・環境保全向上対策に取り組み、地域ぐるみの共同活動を実施。構成員に、女性グループによって運営されている直売所「周世ふれあい市場」も参画。
- 活動を通して、女性グループと地元農業者の連携が図られ、「周世ふれあい市場」の地元農産物の直売や、商品の加工・販売等の活動が活発化。
- 地域の農産物を活用した巻き寿司や弁当、シフォンケーキ等の農産加工品の製造・販売を手がけるなど、6次産業化による地域農業の発展や地域住民や都市住民等との交流に貢献。

【地区概要】

- ・取組面積 33ha（田 33ha）
- ・資源量 開水路10.2km、農道3.1km
- ・主な構成員
土地利用組合、周世ふれあい市場
子供会、PTA、自治会ほか
- ・交付金 約3百万円（H29）

農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化）

活動開始前の状況や課題

- 兵庫県の西部の中山間地域に位置する水田地帯であり、都市部への人口流出が進み、農業者が減少。
- 農村の良好な環境や美しい風景を保全することが困難となり、平成19年度から農地・水・環境保全向上対策に取り組み、地域ぐるみで地域資源の保全活動を実施。
- 女性グループが運営している「周世ふれあい市場」も構成員として参画。女性グループと地元農業者が連携して、イベント等の共同活動を実施。



取組内容

- 活動を通して、農業者との連携が進み、女性グループは、地元農産物を活用した弁当やシフォンケーキの商品開発など、6次産業化の取組に発展。
- 「周世ふれあい市場」の直売所を活用した地域住民の憩いの場づくりや、都市住民との交流を促進。
- 「田んぼダム」広報イベントなどの場で、商品販売や、地元農産物をPRし、自然環境保全と活力ある農村づくりや地域農業の活性化に取組。



地域の農産物を活用した
弁当の製造・販売



農林漁業祭での出店

取組の効果

【6次産業化に関する効果】

- 「周世ふれあい市場」の取組
- ・売上額2千2百万円（H28年度）
- ・取扱品目
H20年度 80品目→H29年度 120品目
- ・女性従業員の雇用12人（H28年度）

○【地域住民等との交流に関する効果】

- ・【利用者数（日当たり）】
H20年度 100人→H28年度 250人



地元農産物の販売



店内を地域住民の憩い
の場として活用



地域の特産品を利用した地域活性化(6次産業化)

こさじ こうかし
小佐治環境保全部会（滋賀県甲賀市）

- 本地域は、滋賀県の東南部に位置し、鈴鹿山脈のふもとにある中山間地域である。
しがはぶたえもち
- 昭和の終わり頃まで最高級のもち米として皇室に献上されていた「滋賀羽二重糯」が古琵琶湖層の土壌を生かして多く作付されていたが、この品種は栽培が難しいことなどから栽培する農家が減少してきた。
- 活動組織が草刈り等の農地維持に係る活動を行うほか、耕作放棄地の有効利用として企業と連携した特産品の作付や様々な地域活動に取り組み、もちの加工・販売を行う「(有)甲賀もち工房」を中心に6次産業化を進め、集落、営農組織、学校等と密接に連携し地域の活性化が図られている。

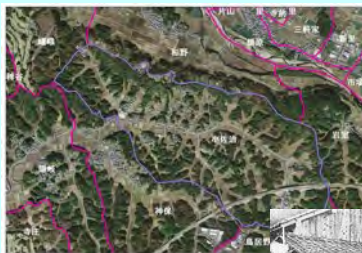
【地区概要】

- ・取組面積 84ha（田84ha）
- ・資源量 開水路 32.0 km、農道 17.0 km
ため池 5箇所
- ・主な構成員
自治会、子供会、老人クラブ等
- ・交付金 約3百万円(H29)

農地維持支払
資源向上支払(共同)

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、滋賀県の東南部に位置し、鈴鹿山脈のふもとにある中山間地域であり、少子高齢化・農家離れが深刻な状態
- 昭和の終わり頃まで最高級のもち米として皇室に献上されていた「滋賀羽二重糯」が多く作付されていたが、この品種は栽培が難しいことから栽培する農家が減少



本取組の対象地域



昭和初期のもち宣伝隊

取組内容

- 小佐治もちの知名度を上げるため「甲賀もちふる里まつり」に参画



まつりでの餅つき実演

- 活動組織が耕作放棄地の有効利用として企業と連携した特産品の作付に取り組み、営農組織がもちに使用する「よもぎ」を栽培している。また、収穫は高齢者グループに手伝ってもらうなど地域一体の取組を実施
- 小中学校への食農教育、社会見学の受入、生物観察会等の地域活動を通して、世代を超えた交流を実施

取組の効果

- 耕作放棄地を有効利用することにより、遊休農地の発生を防止するとともに、よもぎの生産量が増え、「(有)甲賀もち工房」を中心としたもち加工が進むとともに、いろいろな地域活動が行われることで、女性や老人の雇用対策や生きがいとなっている
- 「甲賀もちふる里まつり」には、地元住民約80人がスタッフとなり、子供からお年寄りまで参加し、集落のコミュニティの場となっている
- 活動組織の地域活動により、豊かな生き物を育む水田づくりや環境こだわり農業の積極的な取組がより認識され、安心安全な農産物を提供



よもぎの収穫



く だ わ あ さ ご し
久田和環境保全会（兵庫県朝来市）

- 本地域は、但馬地域南部に位置し、高齢化に伴う後継者不足等が懸念される一方、コウノトリの放鳥に向けて環境に配慮した農法に対する関心が高まった。
- 本取組による水路や農道の草刈り等の集落一斉の共同活動により、農業者の負担が軽減。水田生物が生息しやすい環境を創出。これらの取組により、環境に配慮した農業を支援。
- 水田生物の増加によりコウノトリ等の鳥類が多く飛来するとともに、環境に配慮した農法に関心を持つ若者が新規就農するなど、新たな農業の展開が図られている。

【地区概要】

- ・取組面積 26ha(田26ha、畑0.1ha)
- ・資源量 開水路9.7km、
農道7.0km、ため池1箇所
- ・主な構成員
農事組合法人、婦人会、子供会、
老人会等
- ・交付金 約2百万円(H29)

〔 農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化) 〕

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、但馬地域の南部に位置する中間農業地域である。
- 農業者の高齢化や後継者不足による水路・農道等の維持管理の負担増大や耕作放棄地の発生が懸念。
- 野生下絶滅したコウノトリの放鳥に向けて、環境に配慮した農法に対する地域住民の関心が高まった。
- 平成19年度から、本交付金による水路・農道等の維持管理の共同活動を実施。



久和田の概観

取組内容

- 集落一斉の草刈・泥上げ、水路や農道の補修・更新等を行い、生産条件を改善することで、農業者の負担を軽減。
- 冬期湛水などにより、水田生物が生息しやすい環境を創出するとともに、生物調査による観察を実施。
- これらの取組により、「コウノトリ育むお米生産部会役員会」が定める、無農薬、無化学肥料による「コウノトリ育む農法」による米や黒大豆の栽培を支援。



冬期湛水をしている水田

取組の効果

- 餌となるドジョウやカエル等の水田生物の生息環境が保全され、コウノトリやガン・カモ類等の鳥類が多く飛来。

〔 冬期湛水面積：H20年度0ha→H21年度以降26ha
水田生物の種数：H20年度5種→H27年度10種 〕

- 環境に配慮した農法により、「コウノトリ育むお米」を継続的に栽培。

〔 H27年度の実績
・認証米栽培面積・出荷量 8.6ha(地区面積の33%)・36,120kg
・認証米買取価格
コウノトリ育むお米(無農薬・減農薬)
11,000円/30kg・8,200円/30kg(一般米 6,500円/30kg) 〕

- 多様な生き物を育む環境づくりに対する地域の意識が向上。環境に配慮した農法に関心を持つ若者が新規就農。

〔 新規就農者数
H27年度就農者 1名 H28年度就農者 2名 〕



久和田に飛来したコウノトリ



ゆげゆみ さと りゅうおうちょう
弓削弓つくりの郷 (滋賀県竜王町)

- 本地域は、琵琶湖に流れる日野川の中流部に位置する水田地帯。ほ場整備から40年以上経過し、施設の老朽化により、水路の漏水や泥の堆積が進み、維持管理が課題となっていた。また、県一丸となって取組む琵琶湖の水質保全のため、水田の濁水流出防止対策が必要であった。
- このため、本制度により、浅水代かきの促進や法面の補修による水路の表土流入を防止。また、代かき期の透視度調査のほか、植栽による景観形成活動などにより、濁水防止・環境保全を啓発。
- これらの取組は、水稻やそばの環境こだわり農産物の作付面積の拡大やそばの6次産業化の取組などを支えている。

【地区概要】

- ・取組面積 70ha (田 69ha、畑 1ha)
- ・資源量 開水路 9.8km 農道 4.0km
- ・主な構成員
農業者、自治会、老人会、婦人会、子ども会、農村保全会、OB会
- ・交付金 約230万円(H29)

〔 農地維持支払
資源向上支払(共同) 〕

活動開始前の状況や課題

- 琵琶湖に流れる日野川の中流部に位置する水田地帯。
- ほ場整備から40年以上経過。施設の老朽化により水路の漏水や泥の堆積が進行。維持管理の負担が増加。
- また、琵琶湖の水質保全のため、水田からの濁水流出防止対策が必要になった。



老朽化水路からの漏水状況

取組内容

【濁水防止対策の実施】

- ・濁水防止策として、浅水代かきを促進。
- ・水質保全のため、法面を補強し、水路へ表土の流入を防止。

【啓発活動の実施】

- ・代かき時に集中的に行う透視度調査や看板設置により濁水防止を啓発。
- また、子ども会等と連携した植栽を実施し、環境保全も啓発。



透視度調査の状況



子ども会による植栽状況

取組の効果

【濁水防止対策の取組】

代かき時の透明度調査 3回/年

【環境こだわり農産物※の作付状況】

※化学合成農薬及び化学肥料の使用量を慣行の5割以下に半減し、環境への負荷を削減して生産された農産物

・作付面積
31.4ha(平成25年度) → 42.0ha(平成29年度)

【地域ブランド「竜王そば」の栽培】

・H29年度作付面積:約24ha

【そばの6次産業化】

○そばの有機栽培生産から加工、販売までの6次産業化を実現。



そばを使用した商品の販売